

教会学校だより

# ま 播 か れ た 種 たね

*The Eastern Diocese of the Orthodox Church in Japan*

## 生神女マリヤのイコンの代表的な5つの型



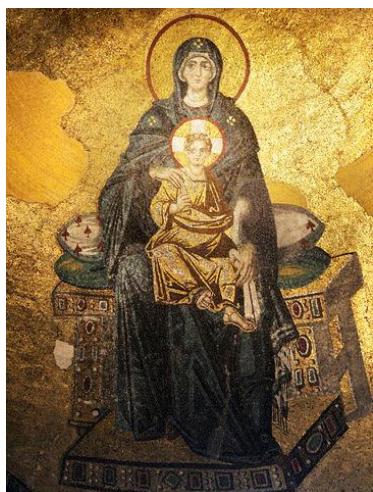
- 印の生神女、オランテ、パナギア
- 祈る
- 生神女の手の形は祈りを表し、円で囲まれたハリストスは神が生神女の胎に宿ったことを表す。



- 導引女、ホディギトリア
- ハリストスへ導く、道を示す
- 生神女の右手はハリストスを指し示す。ハリストスこそが救いの源であり、生神女はガイドである。



- 慈しみの生神女、エレウサ
- 慈愛
- ハリストスの頬と生神女の頬が触れている。神と教会/信者の間の愛の豊さを表す。



- パナクリンタ
- 女宰、慈悲深い
- 生神女は「神の母」として、また救いの協力者として、膝に抱えるハリストスと共に王座(王位)に就く。



- 仲保者、アギオソルティッサ
- 神と人との仲介者
- 生神女の顔は左向きの横顔で書かれ、手も左側を指し、ハリストスに嘆願(デイシス)している。

### もくじ

- 「キャンプだホイ！ を顧みて」 …p. 2-3
- 教会学校ニュース …p. 4-5
- 「奇跡の星」 …p. 6
- しつもんばこ …p. 7
- キャンプ案内 …p. 8

1. イコンの型の名称
  2. 表現される生神女の役割
  3. 解説



## キャンプだホイ！20年を顧みて

マトロナ 星見和子

北海道のキャンプだホイ！が今回 20 回目という事で、少し振り返ってみたいと思います。

第1回が実施されたのは、もともと夏休みに札幌教会を会場として当時の日曜学校の生徒達が大勢一泊のお泊まり会を楽しんでいたのがきっかけでした。それが 25 年前頃より、少しずつ参加者が減って 10 人も集まらなくなってしまいました。どうして参加者が少なくなったのだろう？と皆で話し合い、生徒達に本音を聞く事にしました。「教会のお泊まり会は、朝から夜まで勉強とお祈りばかりでつまらないから行きたくない」と言われ、どうしたものかと考えました。そこで I 家夫婦、T 家夫婦に相談、この際教会から離れ、ちょっと勉強を休み、思いきりサバイバルキャンプをしてみたらどうか？という意見になり、神父様と執事会に諮り候補地をあげて検討してみました。



第1回キャンプだホイ！(1999年)

丁度、今は仙台の児玉神父様がまだ八雲で羊を飼っていらっしゃるというので、そこにお世話になる事に決定、皆で下見に行き計画を立てる事になりました。作業場として閉校した小学校を借りていらしたので、その一室に畳を敷き泊まることに。トイレは昔のトイレがずらっと並んでいましたが札幌の子は中が見えるのは使えません。そこで坐れるトイレカバー

を買って三ヶ所ほど水洗ではないけれど洋式に換え何とか利用できるようにしました。食事は婦人会長を始め、五、六名の方々が二日間三食とも早朝から夜遅くまで大奮闘して用意して下さるようになりました。

当日は前日迄の大雨が嘘のような青空が広がり、子ども達は自家用車で行った人達の他五名は列車で連れて行きましたが国道の橋が決壊してかなり遠回りして行き着きました。参加者は 40 数名、児童、青年は半数位いました。思いがけなく全国から神父様達、神学生と大勢の参加があり、児玉神父様が羊を一頭丸焼きにして下さり忘れられない三日間のキャンプになりました。

札幌に戻って後の反省会で反省項目が大変沢山ありましたがその第一は神父様達や神学生が大勢参加して下さっているのに教会の勉強がないのはもったいない、次回は是非どこかで教会の勉強を入れたい。第二は食事の準備だけに追われて楽しい行事に参加できない人達がいるのは計画が良くない。等種々の反省の上に次の年の場所探しから始めニセコで第2第3回と実施しました。



その後札幌だけで計画するのは、アイデアも片寄り、負担も大きいので全道の宣教會議に諮って行事の内容、場所等総て道東、道央、道南の三地区持ち廻りという事になりました。今は当番地区の教会が中心に為り、前年から準備を進めてその地域に即した内容で安心して参加できるようになりました。

最初の不完全な計画を許可して見守り応援して下さったキリル有原神父様(ペトル主教)始めセラフィム座下、児玉神父様他各神父様達の多大な御指導によって今まで続けてこられた事は主の恩寵の賜物と心から感謝致します。毎回それぞれ素敵なドラマやエピソードが生まれ続けています。



第 19 回キャンプだホイ ! (2017 年)

嬉しい事に昨年は、昔親子で参加して下さった方がその子供を連れて三世代で参加して下さったのです。これからもそういう方達が増える事を期待して、ずっと続けていけたら良いと願っています。

# 教会学校ニュース



## ■一関管轄

### [盛正教会 洗礼と婚配式で五月に輝く]

多分にもれず盛正教会も若者の地元定着は低く、原因として地元に職種が少なく、結婚し子供の教育などを考えると難しさも生まれ、やはり都市部での生活を選ぶことになる。そんな中「ふるさと」に帰省したときに洗礼を受けることが多くなった。十分な知識のないままだが、信仰生活の基本は実家にある。両親・祖父母の姿に教えられていくので、差が出ることもあるが、教会にくくると「親」「兄弟」家族が沢山待っていてくれるので学べる。

五月、23年ぶりの婚配式も行われ、喜びに輝いた。彼等は再びふるさとを離れるが、ふるさとの「家・教会」の戸口はいつも開いています。門を叩かなくてもいいのです、一言連絡下さい。



## ■仙台管轄

### [新入学進級モーレベン]

4月1日（日）聖体礼儀にひきつづいて、新学期を迎えた子供達の感謝祈祷が行われました。聖枝祭のこの日、子供たちは手に枝を持って祈祷に臨み、新しい学年でのスタートに際して希望に胸を膨らませていました。



### [復活祭祝賀会での紙芝居]

4月8日（日）の復活祭、子供たちはこの日ばかりは夜更かしがゆるされて真夜中の祈祷に臨みました。さらに祝賀会にも参加して教会学校で描いた「世界のはじまり」の紙芝居を披露してくれました。上手なナレーションと工夫された絵が好評でした。

## ■石巻管轄

### [教会学校・堂役]

石巻教会では4月8日(日)より教会学校を始めました。この世界に存在する様々なものの絵を描いて、神さまの創造の業の豊かさを考えました。また、5月からは堂役も始めました。

神さまのことを具体的に知識として学べる教会学校、奉神礼への奉仕を通して神さまにお仕えする堂役、どちらもとても大切です。いっしょにがんばりましょう。



## ■札幌管轄 [降誕祭]

12月24日に行われた降誕祭は好天に恵まれ、改修工事が行われたばかりの美しい聖堂は100名を越える参祷者の活気に溢れました。

信徒会館での祝賀会では、恒例となった「キャンプだホイ」のビデオ放映、カフェ“マラジョージ”(青年)による淹れたてコーヒーの販売も好評でした。

小中学生9名による聖句暗唱では日頃の日曜学校での成果が披露されました。



新しい出し物として北海道大学奇術研究会によるマジックショーがリズムよく繰り出され、緊張の面持ちの一年生も練習の成果を披露、拍手が鳴り止みませんでした。ブルゾンさなえと北大のイケメン二人による、人の体を支える微生物の解説パフォーマンスも大好評。サンタクロースの登場に子供たちの興奮は最高潮で、皆さんのご協力により心温まる降誕祭を過ごしました。



## ■釧路管轄 [復活祭]

参祷者全員で同じ時間を過ごすことを心掛け、子供たちは工作をしたり、ローソクを片づけたりしながら聖歌に耳を傾けています。大きな子は聖歌隊に混じって歌う時間が多くなってきました。

祝賀会では小さな子のお世話をしたり、紙芝居を読んだり、bingoゲームの進行役をしたりと、自分たちにできることを考えながら取り組んでいます。



超光速スペースシップで宇宙を調査旅行しているフィリップは、ようやく目的のその星に降り立った。下調べは万全であったものの、実際にその星の様子を目の当たりにしたフィリップは、思わずこう叫んだ。

「ここは何という星なんだ！　まさに奇跡の星だ！」

その星の特徴は何といっても時間が猛スピードで流れている点である。雲はすごい速さで変化し、あっという間に陽が昇り、息もつかせず陽が沈む。河の流れは怒濤の滝のようであり、人の動きは何十倍速の早送りのビデオのようだ。

またたく間に春になり、たちまち夏が来て、疾風のごとく秋が訪れ、目にもとまらぬ速さで冬がやってくる。まさに瞬く間に一年が経つのである。

フィリップは、目を丸くながら、この星の住人にインタビューを始めた。

「高速でかけぬけてゆくこの星の時間を、どう思っていますか？」

「#%&|\$#@#!~%?」

そうだった。フィリップの声は、この星の住人には超スロー再生の音声としてしか聞こえず、フィリップには、彼の語る言葉は超早送りの音声としてしか聞こえない。しかし、準備にぬかりはない。お互いに意思疎通ができるコスモス・トランスレーター機は持参している。フィリップはその機械を使って改めて同じ質問をした。すると彼はこう答えた。

「はい？　何が速いのですか？　別に、普通の時間の流れですよ。」

「いやあ、そんな筈はない。だって、さっき播かれたばかりの種が見る見るうちに大きくなって直ぐさま実がなっているじゃありませんか。たった今、二匹の魚だったのに、あれよあれよという間に卵を産んで、たちどころに何百匹の魚になっているでしょう？」

「そうですかあ？　そうでもないと思いますがね。ゆっくりとプロセスを経て自然にそうなっているようにしか見えませんが……。」

「とんでもない。私の目には、雨の水が忽然と、ぶどうになり、次の瞬間、ぶどう酒になっているように見えるのです。つまり水が一瞬でぶどう酒になるのです。」

「あなたが何を言っているのかわかりません。」

「そうか…わかりました。あなたがたにとって、この星の時間の流れや自然のプロセスはゆっくりに見えるのであって、この奇跡のような現象に気づいていないだけですね。私の目から見たら、驚くべき速さですべてが変動しているので、そこに何か偉大な存在による大きな力の働きがあることが明確にわかるのです。ぜひあなたがたもゆったりとした永遠の時間を持つ私の星に来て見てください。そしてこの星を見れば、きっと目が開かれる筈です。」

リサーチを終えたエクレシア星の派遣調査員フィリップは、報告書をまとめあげて、最後にそのタイトルを次のように記した。

「奇跡の星——太陽系第三惑星・地球」

# しつもんばこ

Q 前に教会で、人間は神さまにつくられたと教わりました。しかし友だちは、人間は猿から進化したと言います。どちらが正しいのですか？

A 全ての生物の始まりは一種（あるいはほんの数種）の生物にまで遡ることができ、それぞれの生物は置かれた環境に適応する為に進化し、現在の様々な種に分かれていった。これがいわゆる進化論です。その進化の過程に於いて、サルと人間は分かれたのが比較的最近であり、生物学的には同じグループ（サル目／霊長目）に属するので、人間の祖先はサルと言われます。とは言え、いま私たちが目にする事の出来るいわゆる“お猿さん”が私たちの祖先かと言えば、実はそうではありません。例えば、サル目の中で私たち人間に最も近い種であり、一番最近に分かれたとされるチンパンジーは、私たちと共に祖先から約700万年前に私たちと分かれ私たちとは別の進化をたどり、私たちは人間（ホモ・サピエンス）、彼らはチンパンジーになったと考えられています。つまり私たちがこの700万年で進化してきたのと同じように彼らも進化してチンパンジーになったのであり、私たちの700万年前の姿を今のチンパンジーが保っているという訳ではないのです。また、サル目からさらに遡れば、人間はウサギやネズミと共に祖先からそれぞれ枝分かれして進化したと進化論では考えられていますので、それを踏まえると、「人類の祖先はサル」という表現は、ある意味この6500万年ほどの区分だけを見た近視眼的な見方とも言えます。

一方、「進化論」に反対する考え方として、「創造科学」というものがあります。これは、聖書の記述の通りにこの世界は造られたとする立場で、例えば、神さまは6日で世界を創造されたと聖書にあることから、一日を24時間とする私たちの「一日」の単位で6日間、すなわち144時間で世界は造られたというような考え方です。ですから創造科学では進化論と異なり、人間は他種の生物からの進化によって生まれたのではなく、神さまが直接アダムとエ娃を創造されたと理解します。この違い、すなわち神さまがアダムという人を他の生き物とは全く別のものとして直接お造りになったのか、それとも、人間は自然に順応するために様々な進化を繰り返した結果、ホモ・サピエンスという種に辿り着いたのか、どちらが正解なの？というのがご質問ですね。

結論から申し上げますと、人類の誕生について、正教会には公式の見解はありません。進化したのかもしれないし、そうでないかも知れない。どちらか分かりません。教会なら答えを持っているはずと期待なさったかもしれません、そのようなことについて正教会はうかつに口を挟みません。なぜなら、人類誕生のプロセスの解明は純粹に科学的な問い合わせ、教会の役割である「人間の救い」とは関係がないからです。

ただ誤解しないでいただきたいのは、たとえ人間が他の生物からの進化によって誕生したのだとしても、それがすなわち「神はない」「聖書は間違っている」ということにはならないということです。科学では、この世界の成り立ちを研究することはできても、時間も空間も超越した神さまのことを解明することはできません。また、聖書は「人間とはいかなるものか」「人間はいまどのような状態にあるのか」という宗教的な真理を教えているのであって、たとえ人間の誕生が聖書の字義通りではなかったとしても、何も問題はないのです。

今後、科学的にどのような解明がなされたとしても、神さまは人間を愛し、人間を導き、人間を救って下さるという私たちの信仰は決して否定されません。このことを心に留めて、柔軟な心でたくさん学び、豊かな人生を送ってください。（司祭ルカ田畠隆平）

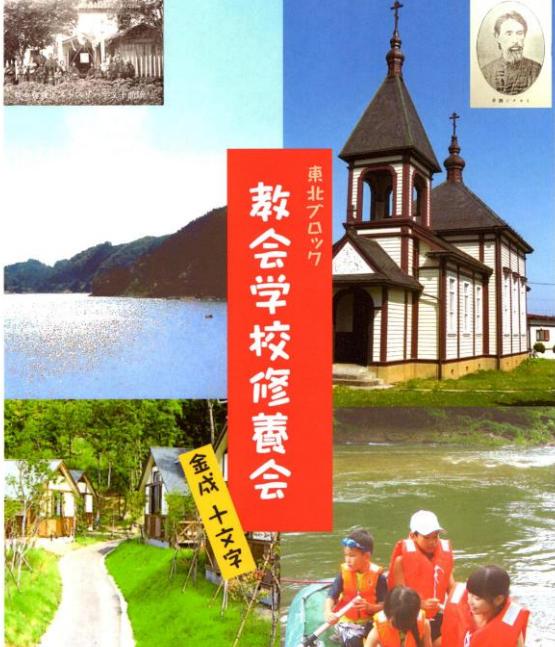


## キャンプだホイ! 20th 2018 in 道南

- 実施日 7月31日（火）～8月2日（木）
- 開催地 北海道立森少年自然の家  
(ネイパル森)  
北海道茅部郡森町駒ヶ岳657番地15  
<http://napal-mori.org/>
- 参加費 おとな 10,000円  
こども 6,000円（小学生～高校生）  
未就学児 無料
- 担当 函館ハリストス正教会  
TEL 0138-23-7387  
FAX 0138-23-7939
- 申込 所属教会または担当教会までご連絡ください。



わくわく集まり、ドキドキ体験!  
0～100歳までときめきキャンプ!!



2018年 7月30日(月)～7月31日(火)

参加費 高校生以上6000円・中学生3000円・幼児無料  
栗原市花山字本沢稻干場「青少年旅行村」

## 教会学校修養会

- 実施日 7月30日（月）～31日（火）
- 開催地 花山青少年旅行村  
栗原市花山字本沢稻干場 2-1  
<http://hytv.jp/>
- 参加費 高校生以上 6,000円  
小・中学生 3,000円  
幼児 無料
- 担当 一関ハリストス正教会  
TEL/FAX 0191-24-3398
- 申込 所属教会で取りまとめて担当教会までお申し込みください

